

幸町デイサービス		主題	マンネリ化アクティビティープログラムを打開せよ!!	
自主的な活動		副題	利用者の生きがいづくりの取り組み	
生きがいづくり				
研究期間	6ヶ月	事業所	東久留米市幸町デイサービスセンター	
発表者：主任				
共同研究者：東久留米市幸町デイサービスセンター				
電話	042-470-8187	メール	taka@shalom.or.jp	
FAX	042-470-8188	URL	www.shalom-tokyo.net/	

今回発表の事業所やサービスの紹介	東久留米市の公設民営型のデイサービスとして平成18年7月に開所。要支援・軽度要介護者を中心とした29名定員のデイサービスセンターです。立地条件を活かした散歩や園芸等を中心に楽しんでいただいています。近隣の地域との交流や外出活動を通してご利用者様の自立支援の観点から様々なアプローチを進めている事業所です。
------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>《実践前の状況と課題》</p> <p>平成18年7月に開所以降、様々なアクティビティープログラムに取り組んできました。しかし、4年間通して実践してきた様々なプログラムも段々とマンネリ化してきた状況がありました。自立度が高く、好奇心旺盛なご利用者様からは「なにか他のプログラムはないの?」「もっと楽しいことはないの?」という声を聞くようになってきました。</p> <p>そこで「幸町デイサービスセンターらしいプログラムとはなにか」をもう一度、考えていくためにご利用者様からのご意見、職員からの意見、ボランティアの方々からのご意見を総合的に集約して、マンネリ化したアクティビティープログラムを打開すべく様々な試みを行い、検証していくことにしました。</p>

<p>《実践の目標と期待する成果》</p> <p>ご利用者様からの生のご意見をいただきながら、どんなことを望んでいるのかをヒアリングを行なう。</p> <p>幸町デイサービスセンターで行なわれている毎月の勉強会、齋藤主任が今年度受講した東京都認知症介護実践者リーダー研修の職場実習での試み等を合わせて、</p> <p>「幸町デイサービスセンターに通所して良かった、又、このセンターに通いたい」と思っただけのようなプログラムとは何かを考えた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 利用者が行きたいところに行けるような外出プログラムを行い、達成感を感じる。 2) 職員の才能を有効的に利用したクラブ活動に登録してもらい、自主的な生きがい作りをしていく。 3) 自分が必要とされ、なんらかの役割を持つことによって、充実感が味わえる。

《具体的な取り組みの内容》

1)外出プログラム(h.22. 9月～11月)

利用者からアンケートを取って自分が行ってみたい場所を集約し、職員で行き先について検討をして、利用者のADLレベルに合わせたコース設定を行い、実行した。

長距離コース:

浅草・柴又の下町再発見コース

中距離コース:

小金井公園・東京たてもの博物館見学

西武園遊園地・童心に帰って楽しむ

東京湾ランチクルーズ・公共交通機関を

使って、非日常的な体験をする。

近距離コース

近隣のレストランに行ってお昼を楽しむ。

2)自主的な倶楽部活動の参加

職員が倶楽部活動の中心となってお利用者様がしてみたい倶楽部活動に申し込み、自主的な活動を行なう。お話し倶楽部・園芸倶楽部・フォークダンス倶楽部・スケッチ倶楽部・麻雀倶楽部等

3)利用者が主人公

一クリスマス会・年末芸能大会の準備活動や参加。

クリスマス会恒例の演劇プログラムで使用する衣装、背景。小道具、大道具等の作成。そして、演劇プログラムに役者として参加、芸能大会には出演者・審査委員等として出演してもらう。

《取り組みの結果と評価》

1)外出プログラム

各コースには自分が行きたいと思った場所をリクエストし、約7割の方が何らかの外出プログラムに参加していただいた。

成果としては、「行きたいと思っていた所に安心して行くことが出来た。」「家族も喜んでくれた」「私もまだまだ行ける場所があると自信がついた。」「デイサービスに行っている甲斐があった。」等の肯定的なご意見が多く聞かれ、職員の励みにもなった。

2)自主的なクラブ活動の参加

新年始まってからの新しいプログラムなので、まだ、効果等を評価する段階にはいたっていないが、少しずつ利用者の関心が増えている。職員も自分の才能を活かしながらの活動なのでいきいきとして働く姿が見られている。

3)利用者が主人公

ご利用者様に主人公や様々な役割を持っていただくことで、生きがい、やりがいを持っていただくことができました。そして、「私はこんなことができる」、「今度はこんなことがやりたい」等の自信や簡単な目標を持つことができました。そして、一番多かったご意見は「自分が役に立ててうれしかった」というご意見でした。

《参考文献資料》

《提案と発信》

私達は日頃、介護者側の目線で様々なことを判断する機会が多く、ご利用者様の本当の声を聞いていなかったような気がしています。これからは、できるだけ多くのご利用者様の声を聞きながら、本当の意味での自立支援、自主行動を広げていきたいと思っております。私たちのセンターが目標をかなえられる場所となれるようにこれからも様々なアクティビティープログラムを発信したいと思っております。

【メモ欄】